

当院で実施している臨床研究に対するご理解・ご協力をお願い

当院リハビリテーション室では、臨床業務を行いながら患者様への最善のリハビリテーション医療を提供するために臨床研究も実施しております。ご理解・ご協力の程どうぞよろしく願いいたします。不明点や不備がありました下記相談窓口までご連絡いただければ幸いです。

【研究課題名】

脳卒中患者における入院関連機能障害（Hospitalization-associated disability：HAD）のリスク因子が発症後の機能転機に及ぼす影響について（後方視的研究）

【研究代表者】

練馬光が丘病院 リハビリテーション室 理学療法士 野本真広

【研究の目的】

入院関連機能障害（HAD）とは、入院した後ベッド上で安静にしている事で引き起こされる運動障害の事で、全入院患者の30～40%に発生すると報告されています。HADの要因は、個人的な要因（年齢や認知機能など）や医学的要因（安静臥床の環境や低栄養状態など）と様々な要因から引き起こされるといわれています。しかし、脳卒中が起こった患者様は意識障害や麻痺症状など一人で動くことが難しい状態になってしまうことが多く、さらに運動障害が強く生じる可能性があります。そのため、脳卒中患者はHADの要因以外にも様々な要因で動きにくくなってしまふ事が予想されます。今回は、HADの要因に焦点を当てて脳卒中が起こった後の身体機能の回復にどの程度影響を与えるのかを調査することを目的としています。

【研究方法】

● 研究の実施に際して対象となる患者様

2022年10月～2024年3月までに初めて脳卒中の病気にかかり、当院でリハビリテーションを受けた患者様が対象となります。

● 使用する情報：以下の内容を入院時から退院時までの情報を匿名化して収集します。

カルテに記載されている年齢・性別・既往歴・生活習慣病の有無・入院時の脳画像所見・入院時の採血項目・リハビリテーション状況（身体機能や認知機能など）・入院前の活動状況など

【個人情報の取り扱い】

今回カルテより個人情報を収集する形をとらせていただきます。情報収集およびデータを解析する際には、患者さんの氏名や住所などと全く関わりのない番号を付す「匿名化」を行いますので、本研究成果を学会、論文等で公表する際に個々の患者さんが特定されることはありません。

【研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法】

本研究にご自身のデータを研究に使うてほしくないとお考えの場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

【研究に関するお問い合わせ先・相談窓口】

練馬光が丘病院 リハビリテーション室 理学療法士 野本真広

担当者所属先住所：〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-5-1

担当者所属連絡先：03-3979-3611（リハビリテーション室 野本真広まで）